

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

○令和1(2019)年度 第2回「健笑庵いくま」運営推進会議

対象事業者名 : (有) ケアサポートことぶき「健笑庵いくま」  
 サービス種類 : 地域密着通所介護事業所  
 開催日 : 令和2年1月23日(木) 午後2時30分～午後4時  
 開催場所 : 健笑庵いくま 1階 ミーティングルーム  
 出席者 : 9名 《内訳》

事業所	3名	利用者	1名
利用者家族	0名	地域代表者	3名
松江市職員	0名	包括支援センター	1名
知見を有する者	1名	その他	0名

【議事・議題】

1. 活動等の状況

①通所事業の現状

- ◆登録者数(令和2年1月現在): 21名(うち男性1名、女性20名)
- ◆介護度別利用者数(令和2年1月現在)

《サービス区分、介護度別の状況》

総合事業通所サービス	該当者	2名	地域密着型通所介護事業	要介護1	11名
	要支援1	0名		要介護2	4名
	要支援2	2名		要介護3	1名
制度外(実費)利用者		1名		要介護4	0名
				要介護5	0名
				申請中	0名

◆各月利用数

- 令和1年8月 (210名)                      ○令和1年9月 (199名)
- 令和1年10月 (200名)                    ○令和1年11月 (177名)
- 令和1年12月 (183名)                    ○令和2年1月 (184名)

②活動報告

- ◆誕生会 (誕生日の一番近い利用日に実施)
- ◆レクリエーション (季節に合わせたものや、要望に応えたもの)
  - ・七夕会 ・おはぎ作り ・生馬選手権(曜日対抗ゲーム) ・敬老会(お団子づくり)
  - ・たこ焼きづくり ・どら焼きづくり ・ホットケーキづくり ・やきそば、チャーハンづくり
  - ・佐太神社参拝 ・クリスマス会 ・年越しそば ・新年会(お好み焼きづくり)

③日曜デイサービス(月1回)

- 令和1年8月 納涼会(ボランティアの方による余興、カレーライス作り)
- 令和1年9・10月 外食・お買い物(なかうら・お食事処弓ヶ浜)、(ミルクの里・シャトーおだか)
- 令和1年11月 (設定なし)
- 令和1年12月 望年会(お鍋づくりと職員による余興、ビンゴゲーム)

④社会参加活動(介護保険外活動)

- 令和1年8月 松江テルサプラネタリウム観賞 1班(1名) 2班(2名)
- 令和1年9月 倉吉なっご館見学 1班(2名)
- 令和1年10月 安来みかん狩り体験 1班(2名)
- 令和1年12月 島根県立美術館「日本伝統工芸展」観賞 1班(2名)

⑤その他活動

- ・ことぶき交流親睦会: 11月24日(日)ことぶき望年会(すいてんかく) 11名参加(家族参加なし)
- ・防災訓練(1回/月) ・野菜作り(屋外畑)活動 ・調理(味噌汁作り、おやつ作り)活動
- ・洗濯物(おしぼり、タオル)たたみ

2. 相談および苦情受付状況・事故報告

①相談

[担当ケアマネージャーより]

- i デイ利用者様の入所予定施設スタッフとの面談の依頼
- ii デイ利用者様の時間延長利用と日曜日の利用についての相談

(状況)

- i 当初入所されていた施設からデイサービスへ通っておられたが、入所施設にて不穏な状態や、その他トラブルなどを抱えておられるも、キーパーソンの方は他県在住にて中々対応が難しいという背景があり、入所施設の変更となった。それに伴いスタッフとの面談を依頼された。
- ii 在宅生活を継続しておられるも、ご本人様と家族様との関係性で様々な問題があり、短期入所などを検討しておられたが、本人様の拒否強く、難しいという判断だった。

(対応)

- i デイサービスにて、速やかにスタッフの方との面談を行い、本人様と家族様にとって、よい選択ができるように支援させて頂いた。
- ii 本人様と家族様の相談の結果、ショートステイを利用される事になり時間延長、日曜利用はなくなった。

②苦情受付なし

③事故報告なし

### 3. 研修会および勉強会等

①職員会議 : 1回/月      ②ケース検討会 : 1回/月

### 4. 質疑・応答:

Q: 要介護度はどう認定されているのか?

A: 訪問調査後コンピューターにより一律に判定される。それを基本に特記事項、主治医の意見書の情報が加味され所定の審査会により認定されている。

Q: 利用者の男女比は?

A: 12月末現在、男性 1、女性 20 の割合となっている。

Q: デイサービスの一日の流れは?

A: 到着後バイタル測定を行い午前中は入浴や趣味活動を行う。昼食・休憩し午後からは、趣味活動や、お茶など、個々のペースに合った活動を行っている。

Q: 今後の経営で不安要素はあるか? また利用料の変動や国県市からの補助はあるのか?

A: 基本的運営に関わっての補助制度はない。介護度別に基準制度が異なり、次第に介護報酬が引き下げられている。その辺での不安要素はあるが、最大の課題はデイサービスの利用者の継続した確保にある。

Q: 要介護度は病気による区分ではないのか?

A: 病気そのものによる区分ではなく、手足の動きや麻痺などの機能的な状況や認知症の症状が原因で起こる、生活の不自由さかに対する介護の必要性な状態の区分となっている。

### 【意見交換】

◎地域代表者(地区民生員): 創立 20 年目と聞き、その実績を評価する。社協や公民館活動にも協力的に取り組んでおられ良いと思う。

◎地域代表者(寿会): 西生馬地域では高齢世帯が50世帯程度あるがデイサービス等を利用されているのは8名程度である。男性の高齢者がデイサービス等の利用が少ないのは幼稚なイメージがあるからではないか。

◎包括支援センター: デイサービスの空き状況の掲載もあり助かっている。最近の包括への相談内容として、在宅生活を限界まで頑張っている家庭が多いように思う。在宅生活を限界まで続けて、入院、入所、他界と言う流れ。その一方でデイサービスに友達が行っているから、自分も行きたいというような相談もあり、両極端な相談状況である。

◎知見有識者: 現在高齢者住宅に住んでおられる方(80歳、女性、支援1)で在宅復帰を目指しているが、インスリンの自己注射が必要。また、復帰後はデイサービスを利用したいが限度額オーバーになり、サービスが利用できないという事例もある。軽度な方に対するサービスを使いづらいのが現状である。介護度だけでは分からない生活の不自由等もあると思っている。

◎利用者様: サービス利用については、特に不満はない。外出の機会を増やしてほしい。

### ※事業所確認欄

<input type="checkbox"/> 活動報告についての評価を受けることができたか。	○
<input type="checkbox"/> 要望・助言等受ける機会を設けたか。	○